

収穫期のウンシュウミカンにおける ハナアザミウマの緊急防除対策

果樹試験場

【研究期間】

平成 29～令和元年度

【背景とねらい】

近年、秋期の高温により収穫期の早い極早生や早生ウンシュウでハナアザミウマによる被害が増加しています。果実が加害されると果皮が白くカスリ状になり、ひどい場合は腐敗することから収穫のロスにつながります（図1）。そこで、ハナアザミウマの発生生態を解明し、有効な防除薬剤を明らかにして防除対策を確立することを目的として研究に取り組みました。



図1 ハナアザミウマとその被害(左:雌成虫、中:加害箇所、右:加害による果実の腐敗)

【研究の成果】

1. ハナアザミウマは着色期の果実に寄生し、極早生ウンシュウでは10月に寄生が多くなり、果実の被害が発生します（図2）。
2. 秋期に開花がみられるセイタカアワダチソウに多数の個体が寄生しており、有力な発生源の1つと考えられます。開花初期から満開期にかけて寄生数が増加するとともに、ほ場へのハナアザミウマの飛来数が増加します（図3、4）。
3. スピネトラム水和剤及びスピノサド水和剤で、高い防除効果が認められました（図5、6）。

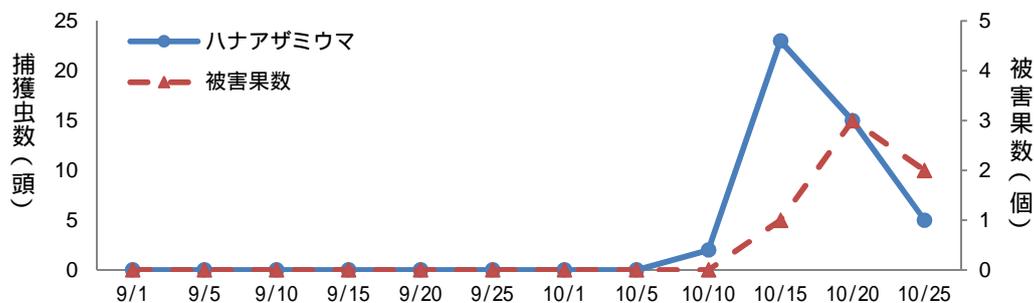


図2 ハナアザミウマの寄生と被害果数（2019）

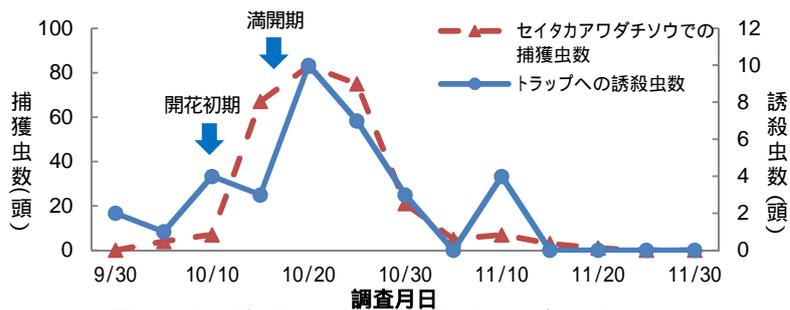


図4 満開期のセイタカアワダチソウ

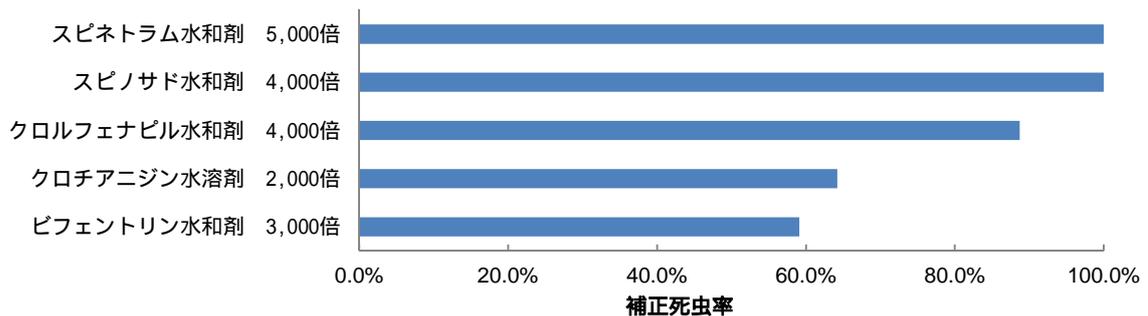


図5 室内での検定によるハナアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果(2018)

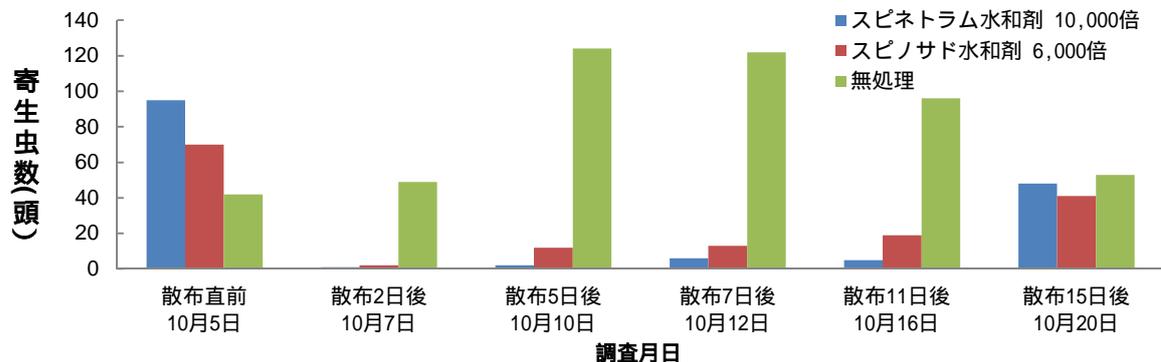


図6 ほ場での薬剤散布試験における果実へのハナアザミウマの寄生虫数(2019)

[成果のポイントと活用]

1. セイタカアワダチソウがほ場内やその周辺でみられた場合は除草を行い、発生源の除去に努めます。
2. 果実が着色し始めた頃からほ場内をよく見回ります。樹の上部の果実同士が接した部分を観察し、ハナアザミウマを1頭でも発見したら速やかに薬剤散布を行うことで、効果的に防除できます。
3. 防除薬剤はスピネトラム水和剤(収穫前日まで)やスピノサド水和剤(収穫7日前まで)が有効です。また、薬剤散布日から収穫までに期間があり、寄生の増加がみられた場合は再度追加散布を行います。散布が収穫期の間近になることから薬剤の収穫前日数に注意し、登録内容に従って適正に使用してください。

(問い合わせ先 TEL:0737-52-4320)